

図書室から「新着図書」のお知らせ

『エンド・オブ・ライフ』 佐々涼子

本屋大賞 2020 年
ノンフィクション本大賞受賞

「命の閉じ方」をレッスンする。

200名の患者を看取ってきた友人の看護婦が病を得た。「看取りのプロフェッショナル」である友人の、自身の最期への向き合い方は意外なものだった。

残された日々を共に過ごすことで見えてきた「理想の死の迎え方」とは…

在宅医療の取材に取り組むきっかけとなった著者の難病の母と、彼女を自宅で献身的に介護する父の話を変え、7年間にわたり見つめてきた在宅での終末医療の現場を静かな筆致で描く。

私たちに、自身や家族の終末期のあり方を考えさせてくれる感動のノンフィクション。

「このミステリーがすごい！」2021年度版国内編

〈週刊文春〉2020ミステリーベスト10国内部門

第1位

〈ハヤカワ・ミステリマガジン〉ミステリが読みたい！国内編

『たかが殺人じゃないか 昭和24年の推理小説』 辻真先

昭和24年、ミステリ作家を目指している「カツ丼」こと風早勝利は、名古屋市内の新制高校3年生になった。旧制中学卒業後の、たった一年だけの男女共学の高校生活。そんな中、顧問の勧めで勝利たち推理小説研究会は、映画研究会と合同で一泊旅行を計画する。顧問と男女生徒五名で湯谷温泉へ修学旅行代わりの小旅行だった…そこで巻き込まれた密室殺人事件！さらに夏休み最終日の夜、キティ台風が襲来する中で起きた廃墟での首切り事件！二つの不可解な事件に遭遇した勝利たちは果たして…。

『夜明けのすべて』 瀬尾まいこ

「今の自分にできることなど何もないと思っていたけど、可能なことが一つある」

職場の人たちの理解に助けられながらも、月に一度のPMS(月経前症候群)でイライラが抑えられない美沙は、やる気がないように見える、転職してきたばかりの山添君に当たってしまう。山添君はパニック障害になり、生きがいも気力も失っていた。互いに友情も恋も感じていないけれど、おせっかいな者同士の二人は、自分の病気は治せなくても、相手を助けることはできるのではないかと思うようになる…。

人生は思っていたより厳しいけれど、救いだってそこら中にある。

生きるのが少し楽になる、心に優しい物語。

* 新着本の貸し出しと予約受付開始は2/1(月)からです。

* 新着本の貸し出しは、1人1冊。(上下巻は一緒に貸し出しできます。)